

新春特別対談

激流グローバル新たな時代へ — オンリーワンとダイバーシティで「元気な日本」をつくる



小谷真生子氏

BSジャパン『日経プラス10』メインキャスター

志賀俊之氏

(一社)日本在外企業協会 副会長
日産自動車(株) 副会長

OECD が実質経済成長率見通しを下方修正するなど、世界経済は決して明るい状況とは言えない。日本も急激な円安が続き、輸出型企業の決算にはプラスとはなるものの家計への影響が懸念されている。政治情勢もアメリカの中間選挙では民主党が惨敗、日中、日韓関係やクリミア問題が尾を引く日韓関係も微妙な状況だ。果たして2015年はどのような年になるか。激流の世界の中で「元気な日本」にするためにはどうすればいいのか。明るく元気なお2人にその方策を語り合っていた。

消費税と「ざる状態」の社会保障

志賀：2014年のお正月と年末を比較すると世の中が大きく変わった感じがします。日本について言えば、年初は消費増税前の勢いがあり、4～6月は少し落ち込んでも7月くらいからはリカバーすると思っていましたが、自動車の販売も増税の影響を受け少し勢いが足りないという実感です。海外も良いところはアメリカくらい。ここに来てドイツも元気がないし中国ももう一つ。中国での自動車販売はGDPの伸び率プラスαで伸びていましたが、9月はGDPの7.3%に対し自動車は2%強しか伸びず消費がスローダウンし始めています。東南アジア、インド、ブラジルも伸

びていない。世界的に斑模様というのが昨年の印象です。

小谷：昨年10月に日銀の黒田総裁が量的緩和を発表しましたが、安倍総理も「まさかこのタイミングで」と側近におっしゃったほどのサプライズでした。マーケットも反応し株価が上昇、円安も急激に進みました。ただ7～9月期のGDP成長率は芳しくなく15年10月に予定されていた消費税増税は先送りされました。17年4月には「景気条項なし」ということで、消費税率は確実に10%となります。14年と17年の2回で計5%分の消費税増税。14年の増税を教訓に17年の再増税をどうお考えですか？

志賀：私は絶対に消費税を上げた方がいいと思